

令和5年度 3学期終業式（中学卒業式）式辞

まずは、中学3年生164名の皆さん、卒業おめでとう。

皆さんは、3年前にまだ小学生の雰囲気や漂わせながら本校に入学して以来、多くのことを学び、様々な経験も重ねました。

中学卒業というこの節目に、中学の3年間を自分なりに評価をしてみてください。そして、今日家に帰ったら、家族の方に「無事、義務教育を終えることが出来ました。ありがとうございます」と、君たちなりの言葉で伝えてください。

さて、本日、第3学期の終業式を迎えました。今年度の学びを修了したことを認める修了式でもあります。今一度、静かにこの一年を振り返り、学力も心も成長できたか確認してみてください。自分の成長ぶりは計画どおりですか、どうでしょう。

今年度、高校3年生の廊下には、「志定まれば、気盛んなり」という言葉を掲示してもらっていました。幕末の志士たちの指導的立場であった吉田松陰の言葉です。志とは言うまでもなく、心に決めた目標に向けて進もうとする気持ち、決心のことです。つまり、「目標に向けての気持ちが志としてはっきりすれば、自ずとやる気や意欲が生じる」という意味です。

君たちにとって、奈良学園高等学校を卒業するときの目標は、自分の希望する大学に進むことですね。しかし、その前に自分は大学で何を学びたいのか、学んだことを生かしてどんな社会人になろうとしているのかを考えなければなりません。それこそが「志」なのです。

「志」を定め、「気盛ん」に頑張った今年の高3生や 卒業後1年、2年と頑張りを続けた卒業生の国公立大学の入試結果が判明してきています。

3月12日現在での現役生と既卒者を合わせた合格者数ですが、
東京大学1 京都大学10 大阪大学13 神戸大学8をはじめ、
国公立大学合格者数が92となっています。昨年の同時期は62でしたので合格者が増えたことは事実です。これから中期・後期入試の結果が判明してきますが、今後順調に目標達成してくれることを期待しているところです。

また、この合格者数には国公立大学の推薦入試（総合型選抜・学校推薦型選抜）の合格者数も含まれており、一昨年は8、昨年は5だったのが、今年度は15と飛躍的に増えました。課題研究や部活動、学校行事等での頑張りが成果を基に大学合格につながってくれています。

ただ君たちに伝えたいことは、合格者数でも数の増減でもなく、合格・不合格にかかわらずのその裏には、ものすごい悩みや葛藤があり、生活リズムを整えながら学習時間を生み出し、積み重ね、家族や奈良学園の先生方の力強い支えがあったということです。そして、合格も不合格も人生の大切な通過点あると同時に、意味ある尊い節目です。その節目もゴールではなく、スタートだということです。

私たちの生活（人生）は、常にゴールとスタートを繰り返しています。したがって、今日の終業式は今年度のゴールであるけれど、来年度に向けたスタートでもあるのです。

ところで、人生をよりよくするため、成功するために必要な力について、色々な書物が出版され、必要な知性や能力について述べられています。私はそのなかで共感してきたのが、「想像力」と「反省力（内省力）」です。

誰もがそうですが、成功に向けて歩みたいと考えているでしょう。歩む過程においては、自分の周りで起こっていることをなぜかどうしてかと考えたり、自分に関わる未来で起こることを予測したりすることが必要です。そのとき、どれだけ具体的なシミュレーションをすることができるかがポイントです。この具体的なシミュレーションを適切に行うには確かな「想像力（イマジネーション）」が不可欠です。

例えば部活動において、対戦相手との戦略を練る場合においても、探究活動を行う場合においても、学習計画を立てる場合においても言えることですが、適切に情報を集め、「想像力」を働かせ、徹底的なシミュレーションを行う知性が重要となります。

もう一つ大事な知性「反省力」についてです。戦略を考えて実施したときに、当然成功するときとうまく進まないことがあります。いずれの場合においても、実行した経緯・経過を仔細に振り返り、改善策を学ぶことが出来る力が「反省力」です。

つまり、「想像力」は「未来に起こる出来事の展開を具体的に想像し、最善策を選ぶ力」であり、「反省力」は過去に起こった出来事を細かく振り返り、そこから改善策を学ぶ力」といえます。

「想像力」と「反省力」、君たち自身に備わっていますか？

今話したことは、中学生には少し難しいことかもしれませんが、高いレベルの「想像力・反省力」について話をしました。

君たちも相手のことを理解したり、人の気持ちを考えたりすることがありま

すよね。そのときに働いているのが「想像力」です。今日一日の自分の言動を振り返り、どうであったかを考えて次にいかすことが見つければ、それも立派な「反省力」です。

日々の生活の中で、そうした力・知性を意識することで、よりよい学校生活にしてもらいたいと願っています。

先ほど、「終業式は今年度のゴールであるけれど、来年度に向けたスタートだ」と言いました。まずは、「反省力」を働かせて一年を振り返り、改善策を見つけてください。そして、改善策を基に今後の学校生活を想像し、自分にとって最善と思える方策をこの春休みに見出しておいてください。

高2生の皆さん、今年の大学受験でうまくいかなかった先輩たちは臥薪嘗胆の思いで、すでに新たなスタートを切っています。間違いなく君たちのライバルとなるはずです。君たちも頑張ってください。

最後に、先の吉田松陰は「宜しく先ず一事（いちじ）より一日（いちじつ）より始むべし」と言っています。「志をたてたなら、まず小さなこと、一つのことから、思いついた日から始めるべきである」という意味です。目標を立てたこと自体に満足をして終わらないようにしてください。

それでは、くれぐれも事故等に気をつけて、充実した春休みを過ごしてくれることを期待して、私の話を終わります。

以上